

## 4 調 査 結 果

伊野波 盛 仁

### (1) 与那覇の地形

与那覇湾は宮古島の西部に位置していて北西部に湾口を持つ袋状の内湾である。面積はおよそ860ha、干潮時にはほとんど干潟になり、その面積はおよそ700haである。

湾の口部から東側に沿って湾奥部に至る水路がある。湾内における干潟は大部分地盤高が+40cm以上であって、かなり干出時間が長い干潟で、タイドプールはほとんどない。

また干潟の表面はほとんど細かい砂や泥土におおわれていて岩板の露出部や礫の散在するところはみられない。しかし湾の東側、すなわち水路部の東側部分では大礫の散在がみられる。

同湾の口部に近い与那覇岬（ヘラ状部）の東側には図-1に示すとおり直径500m余の漂砂の堆積が認められる（5月）、砂におおわれたアジモが認められることから、季節的な移動をしているようである。

湾奥部即ち与那覇や洲鎌の村落の近くでは泥分が多く、“くるぶし”まで没する程であった。